≡ プレスリリース ≡

新サービス

報道関係者各位

2016 年 6 月 29 日
株式会社スクウェイブ
社長室　広報担当

「情報セキュリティ意識レベル診断(MSIS)」
「情報漏えい実態リスク事例ベース診断(PCIL)」
～7月1日より提供開始～

株式会社スクウェイブ(所在地:東京都港区、代表取締役:黒須豊)は、7 月 1 日に下記2サービスの提供を開始します。

■情報セキュリティ意識レベル診断:MSIS(Mind Set for Information Security)

～情報セキュリティのマインドセット改革を図るための意識レベル診断サービス～

http://www.k2wave.com/counseling/msis.html

近年、多くの企業で情報セキュリティを確保するため ISMS 等の整備・運用が進められています。しかし、事実として情報セキュリティ事故は発生しており、そのいくつかが致命的な情報漏えい事故となっています。その理由は、知識はあっても現実の行動において、人の意識レベルにばらつきがあり、必ずしも全員が厳格な運営を行っていることはむしろ稀だからです。そこで、スクウェイブ社オリジナルの SCSA フレームワーク(下記)を用いて、社員 1 人 1 人の本音部分の意識レベルを診断すると同時に企業内の意識レベルを可視化し、対策を打つべき対象と対策の指針を提供します。

《 SCSA(Security Conscious Self Assessment)フレームワーク 》

スクウェイブ社のSCSAフレームワークは、経済産業省、IPA、ISMS、ISACA等の最新動向を踏まえた上で、主要な脅威として、「攻撃」、「障害」、「漏えい」に対する意識レベルをセルフ・アセスメントするため、スクウェイブが独自に定義した意識レベルの状況別調査フレームワークです。

- 自宅他
- 移動中（通勤含む）
- 飲み会中など
- 共用エレベータ内
- 客・取引先
- Cafe等
- その他

- 会議中（部外者あり）
- ＰＣ利用中
- 残業中
- トイレ内
- 食堂内
- その他

定量調査

状況別の意識レベルを調査し、7段階のスケールで定量化します。また、サーベイの各質問は、敢えて本人のことではなく、第三者の行動に対する同意度合いを問います。こうすることで、本音と建前が明確になり、回答者の本音部分を引き出す*ことができます。

*この手法は心理学分野において、最も精度が高い調査法として認められているものです。

定性調査

ヒアリングによる確認

必要に応じて対象者を厳選した補完インタビューを実施します。

個人別フィードバックレポート

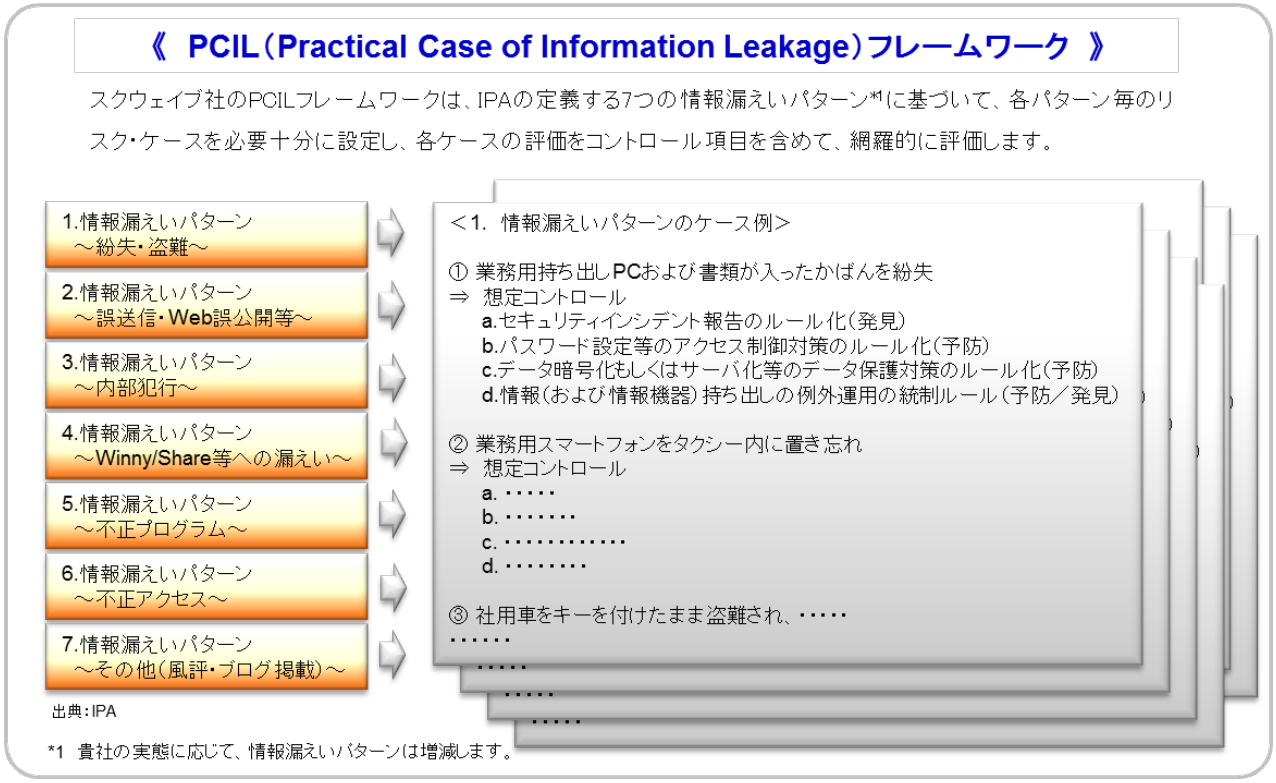
調査票回答者全員に対し、個人別フィードバックレポート送付します。

■情報漏えい実態リスク事例ベース診断：PCIL（Practical Case of Information Leakage）

～情報漏えいの実態リスクに関する診断サービス～

http://www.k2wave.com/counseling/pcil.html

近年、多くの企業で情報セキュリティを確保するため ISMS 等の整備・運用が進められています。しかし、事実として情報セキュリティ事故は発生し、そのいくつかが致命的な情報漏えい事故となっています。その理由は、マネジメント・システムが整備されていたとしても、その対象範囲が組織全体の中では部分的であったり、その意図が必ずしも人員に周知や認知されていないなど、現場の業務の遂行が優先され、結果的に、マネジメント・システムが陳腐化し形骸化するためです。そこで、スクウェイブ社では、実際の情報セキュリティリスク事例をもとにした独自の評価フレームにより、日常の業務の実態を正しく評価し、潜在的な情報セキュリティリスクをあぶり出すことで、より実効性ある対策を打つための具体的な改善策や対策の指針を提供します。



【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社スクウェイブ　社長室　広報担当
E-mail：reception@k2wave.com

※本プレスリリース記載の情報は発表日現在の情報です。予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。

以上